

2020年度 学校評価報告書

(自己評価・授業評価・学校関係者評価及び次年度方針)

2021年3月31日

大阪信愛学院小学校

学校評価委員会

はじめに

「学校教育法」「学校教育法施行細則」に基づき、2020年度に実施した「学校評価」の内容をご報告致します。

1.建学の精神

「キリストに信頼し、愛の実践に生きる」

1877年(明治10年)、フランスから派遣された4人のシスターたちは、町の中にすてられた子ども達を養育することから始めた。それは「隣人を自分のように愛しなさい」というキリスト教的精神の表れである。その精神に従い、弱い者、困っている者、傷ついている者に手を差し伸べるといふ行為を実践した。

1884年(明治17年)、大阪の川口居留地に最初の女学校が創立された。信愛に集う生徒たちが建学の精神を体現し、社会に貢献できる人間になること、愛と奉仕の精神をもった人間の育成を目指す。

2.教育目標

カトリック精神にもとづく人生観をもたせ、豊かな心を養うと共に、物事を正しく判断して行動し、進んで国際社会に奉仕できる明朗で健康な人を育てることを目指します。

- (1)魅力ある信愛教育を追求する。
- (2)生活態度を磨き、実践力をつける。
- (3)強い身体と豊かな心を育む。
- (4)基礎学力の定着と向上をはかる。
- (5)グローバル社会で求められる力をつける。
- (6)募集行事・広報活動の充実をはかる。

3.2020年度(令和2年度)学校目標

- (1)創立者についての理解を深める。
- (2)児童が持っている力を最大限に伸ばす。
- (3)効果的にICT機器を活用した授業を展開する。
- (4)入試関連行事の充実をはかる。

4. 2020年度(令和2年度)学校目標と具体的方策及び評価指標

	今年度の重点目標	具体的な取組計画	評価指標
魅力ある信愛教育を追求する。	聖書の言葉にふれさせる。	毎月のみことばを唱え、自分の生活をふり返る。	みことばを身近なものとしてとらえ、毎日の生活にいかそうとする。
	感謝と思いやりの心を養う。	「神様が、人が、そして自分が好き」という思いを育てる。	お互いの長所、短所を理解し、自分も友達も大切にできる。
生活態度を磨き実践力をつける。	元気な挨拶や返事を励行する。	先生から児童へ、児童から先生へ、児童同士が元気な挨拶をするよう意識づける。	先生や友達、来校者に進んで挨拶ができる。
強い身体と豊かな心を育む。	基本的な礼儀作法や正しい姿勢を励行する。	正しい姿勢で、授業の開始と終了の挨拶をするよう意識づけをする。	休み時間と授業の区別をつけ、集中して学習に臨む姿勢を育てる。
		マナーを守り、安全に登下校できるように指導する。	集団下校を通し、縦割りでマナーを守り、安全に登下校する。
	あきらめず最後までやり通す心を養う。	放課後などの時間を活用し、あきらめず最後まで課題をやり通すよう支援する。	学習で「わからない」をそのままにせず、「わかった」と思えるまで取り組む姿勢を養う。
基礎学力の定着と向上をはかる。	自ら考える姿勢を育む。	新しい学習に対し、主体的に自分の知識を活用し、考えたり調べたりする習慣を身につけさせる。	放課後学習・土曜学習・パワーアップ学習などを通して、個人に応じた指導をし、ひらめき・やる気・可能性を引き出す。
	効果的にICT機器を活用した授業を展開する。	ICT機器を活用し互いに意見をかわし、それぞれの考えを深める。	タブレットを使った効果的な授業の研究をする。
グローバル社会で求められる力をつける。	進んで英語学習に取り組む姿勢を養う。	英語の課題に、楽しんで取り組む姿勢を養う。	毎日の家庭学習に英語学習を取り入れ、リスニング力を養う。
	異なる考えを柔軟に受け入れる心を育てる。	わがままをおさえ、友達の意見を最後まできけるように導く。	日々の学校生活の中で、何がわがままなのかを伝え、相手の立場になって考えられる児童に育てる。
募集行事・広報活動の充実をはかる。	入試関連行事の充実をはかる。	オープンスクール、入試説明会の充実をはかる。	本校を理解し、入学希望者が増えるよう、それぞれの時期に適切な内容のオープンスクールを実施する。
	ホームページを効果的に活用する。	ホームページのブログによる発信の充実をはかる。	ホームページのブログを利用し、日々の学校生活の様子を伝える。

5. 学校関係者評価

(1) 構成

教育会代表(会長・副会長)・小学校顧問・教育会会計監査
関係者(校長・教頭・担当)

(2) 開催

令和3年6月25日(金)午後1時30分～午後3時

(3) 評価のために使用した資料

自己評価の結果及びアンケート結果の分析

(4) 学校関係者評価委員会のまとめ

- ・教職員、在校生、保護者に「信愛大好き」という気持ちを育み、本校の良さを口コミで広げてもらうことが大切。
- ・コロナ禍で急な休校であっても、迅速に双方向での学習を行い、学びを止めなかったのがよかった。
- ・休校中の課題に対応できない児童に対して個別に電話連絡をしたり、休校が明けてから補習を行うなど、手厚い対応がよかった。
- ・「わがままをおさえ、友達の意見を最後まで聞けるように導く」の結果が昨年より後退した原因は、新学期のスタートが休校で学級づくりが例年通りできなかったことや本校の特徴である縦割り活動ができなかったことに原因があるのではないか。
- ・信愛の精神が好きな人を増やし、その人たちに入学してもらう。
- ・「信愛精神」にそぐわない児童、保護者に対して適切に対応していく必要がある。
- ・募集活動として幼児塾を訪問し、つながりを持てたのがよかった。今後もつながりを途切れさせないことが大切。
- ・緊急事態宣言中であってもウェブによる学校説明会やオープンスクールなど、活動を止めなかったのがよかった。

6. 2020年度(令和2年度) 自己評価及び次年度の課題と改善策

聖書の言葉にふれさせる。

《具体的な取組計画》 毎月のみことばを唱え、自分の生活を振り返る。

〈活動実績と自己評価〉

宗教の授業で毎月のみことばについて絵本などを使い、身近な事柄から指導を受けた。児童と一緒に授業を受けている担任と、専科の教員とでアンケートの回答に違いがでたのではないか。

自己評価

B

〈次年度の課題と改善策〉

どの学年も、それぞれの発達段階に応じて創立者の精神を学ぶ機会をもつ。

感謝と思いやりの心を養う。

《具体的な取組計画》「神様が、人が、そして自分が好き」という思いを育てる。

〈活動実績と自己評価〉

誕生日に校長からメッセージカードを受け取り、友達や先生からお祝いの言葉をもらい、自分が大切にされていることを感じる事ができた。

自己評価

B

〈次年度の課題と改善策〉

一人ひとりが自己肯定感を持てるよう、言葉がけを心掛ける。

元気な挨拶や返事を励行する。

《具体的な取組計画》先生から児童へ、児童から先生へ、児童同士が元気な挨拶をするよう意識づけをする。

〈活動実績と自己評価〉

アンケートでは昨年より少しではあるが、後退した結果となった。年度初めが緊急事態宣言のための休校となり、イレギュラーなスタートとなったことも多少影響していると思われる。どのような状況においても、児童が安心して、生き生きと登校し学校生活を送れるよう、対応していきたい。

自己評価

C

〈次年度の課題と改善策〉

朝からしっかり声が出せるよう、門に立つ日直の教員が引き続き挨拶をし、児童の元気な挨拶を促す。

基本的な礼儀作法や正しい姿勢を励行する。

《具体的な取組計画》正しい姿勢で、授業の開始と終了の挨拶をするよう意識づけをする。

〈活動実績と自己評価〉

昨年よりアンケートではよい結果となった。

〈次年度の課題と改善策〉

引き続き毎時間、授業の開始と終了の挨拶を大切にしていきたい。

自己評価

B

《具体的な取組計画》マナーを守り、安全に登下校できるように指導する。

〈活動実績と自己評価〉

大部分の児童はマナーを守って登下校していたが、一部の同じ児童が何度も指導を必要とした。コロナ禍で異学年が集まる登下校集会在例年通りできなかつた影響も考えられる。今後の登下校集会の持ち方も検討が必要である。

あきらめず最後までやり通す心を養う。	
<p>《具体的な取組計画》 放課後などの時間を活用し、あきらめず最後まで課題をやり通すよう支援する。</p> <p>〈活動実績と自己評価〉 課題がこなせず放課後に残ることができる児童は、その時間を利用し、やり遂げることができたが、家庭の都合で残れず、課題もやり終えることができない児童が課題をこなしきれなかった。</p> <p>〈次年度の課題と改善策〉 粘り強く取り組めるよう、一人一人にあった方法を模索し実践する。</p>	自己評価 A
自ら考える姿勢を育む。	
<p>《具体的な取組計画》新しい学習に対し、自分の知識を活用し、考えたり調べたりする習慣を身につけさせる。</p> <p>〈活動実績と自己評価〉 めあてにそって、自分で問題解決を図る時間を確保し、それぞれの考えを出し合い、授業を展開することができた。その結果昨年よりよいアンケート結果となった。</p> <p>〈次年度の課題と改善策〉 ICT機器を活用し、互いの考えをより効率的に分ち合えるようにする。</p>	自己評価 B
効果的にICT機器を活用した授業を展開する。	
<p>《具体的な取組計画》 基本的な使い方を習得させ、短時間で効果的な学習に活用させる。</p> <p>〈活動実績と自己評価〉 現在、小学校が保有しているタブレットに限りがあるため、使いたいときにいつでも使える状態ではなく、基本的な使い方の習得はある程度進んだが、短時間で効果的な学習に十分活用するまでには至らなかった。</p> <p>〈次年度の課題と改善策〉 2021年度より4年生が一人一台所有になるため、改善が見込まれる。</p>	自己評価 B
進んで英語学習に取り組む姿勢を養う。	
<p>《具体的な取組計画》 英語の課題に、楽しんで取り組む姿勢を養う。</p> <p>〈活動実績と自己評価〉 低学年のうちに家庭学習を習慣づけるために、『毎日の学習』に英語学習の保護者向けガイドラインを載せ、家庭との連携を図った。高学年になると、毎日の取り組み方の差により力の差が出ている。</p> <p>〈次年度の課題と改善策〉 児童が家庭学習でも取り組めるようさらに工夫を続ける。</p>	自己評価 B

異なる考えを柔軟に受け入れる心を育てる。	
<p>《具体的な取組計画》 わがままをおさえ、友達の意見を最後まできけるよう導く。 〈活動実績と自己評価〉 昨年よりアンケート結果が後退した。原因は、新学期のスタートが休校で学級づくりが例年通りできなかったことや本校の特徴である縦割り活動ができなかったことではないかと考えられる。</p> <p>〈次年度の課題と改善策〉 コロナ禍でもできる学級づくりや縦割り活動の持ち方を工夫する。</p>	<p>自己評価</p> <p>C</p>
入試関連行事の充実をはかる。	
<p>《具体的な取組計画》 オープンスクール、保護者のための体験教室の充実をはかる。 〈活動実績と自己評価〉 緊急事態宣言中であってもウェブによる学校説明会やオープンスクールなど、活動を止めなかったのがよかった。</p> <p>〈次年度の課題と改善策〉 コロナ禍でも一度に来校する人数を制限し、回数を増やし、できるだけ学校に足を運んでもらい、本校の良さを知ってもらう機会を増やす。</p>	<p>自己評価</p> <p>B</p>
ホームページの刷新をはかる。	
<p>《具体的な取組計画》 ホームページのブログによる発信の充実をはかる。 〈活動実績と自己評価〉 前年は学院ホームページの改変の時期が小学校のオープンスクールや入試説明会参加募集の時期と重なり、広報活動が十分にできなかったが、本年は一新されたホームページの活用が進んだ。</p> <p>〈次年度の課題と改善策〉 こまめに学習の様子、日々の学校生活の様子を発信する。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>

2020年度 学校評価アンケート(年度末)
小学校 本校の取り組み

2020年度 学校評価アンケート(年度末) 小学校 本校の取り組み		よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容				
聖書の言葉にふれさせる。	毎月のみ言葉を唱え、自分の生活を振り返る。	25	69	6	0
感謝と思いやりの心を養う。	「神様が、人が、そして自分が好き」という思いを育てる。	31	69	0	0
元気な挨拶や返事を励行する。	先生から児童へ、児童から先生へ、児童同士が元気な挨拶をするよう意識づける。	37	44	19	0
基本的な礼儀作法や正しい姿勢を励行する。	正しい姿勢で、授業の開始と終了の挨拶をするよう意識付けをする。	56	44	0	0
	マナーを守り、安全に登下校できるように指導する。	38	50	12	0
あきらめず最後までやり通す心を養う。	放課後などの時間を活用し、あきらめず最後まで課題をやり通すよう支援する。	44	56	0	0
自ら考える姿勢を育む。	新しい学習に対し、主体的に自分の知識を活用し、考えたり調べたりする習慣を身につけさせる。	13	81	6	0
効果的にICT機器を活用した授業を展開する。	ICT機器を活用し互いに意見を交わし、それぞれの考えを深める。	13	68	19	0
進んで英語学習に取り組む姿勢を養う。	英語の課題に、楽しんで取り組む姿勢を養う。	25	69	6	0
異なる考えを柔軟に受け入れる心を育てる。	わがままをおさえ、友達の意見を最後まできけるよう導く。	25	69	6	0
入試関連行事の充実をはかる。	オープンスクール、入試説明会の充実をはかる。	62	38	0	0
ホームページの刷新をはかる。	ホームページのブログによる発信の充実をはかる。	50	50	0	0